

令和3年1月23日

南の風 383

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

382号の続きです。4Qの詳しい攻防は381号に載っています。

ゲーム全体の感想です。トヨタにとっては、勝つチャンスが大きかった一戦だったので悔やまれます。

まずオフェンスです。結論から言うともう少し中、ポストを使った崩しがほしかったです。スターターに河村(185cm)を起用したのは、ディフェンスでは当たりました。ENEOSよりサイズを大きくしてゾーンディフェンスに生かしたことです。しかし、ポストでのプレーが少なかったです。もう少しハイローにボールを合わせられれば、外にもギャップができたはずで、河村に限らず、ポストはステファニーでもよかったと思います。単発でポストアップする場面はありましたがもう少し拘りたかったです。

エブリンのパワープレーやミドルシュート、安間のドライブやミドルシュート、三好の3Pが安定していただけに、ポストを絡めることができればもっと攻めのパターンが広がった気がします。

またポストプレーではなく、ピック&ロールを徹底してもよかったです。ピックで崩して中のスペースを攻めることをもっと仕掛けてもよかった気がします。

後半、エブリン、安間、三好の3人も4Qは足に来ていた(疲れがたまっていた)と思いました。安間の5ファウルや、エブリンのショットや三好の3Pの確率が落ちたことに表れていました。この3人を責めることはできません。ほぼフル回転でがんばっていたのですから。

トヨタのディフェンス、マッチアップゾーン、スイッチングマンツーマンは功を奏しました。前半ENEOSが攻めあぐねていたことから見て取れます。後半特に4Qは、1on1のドライブでやられる場面が多かったです。宮澤の3Pや中田のミドルやポストを警戒し、宮崎や岡本のドライブを許してしまいました。疲労が重なったこともあり付いて行けずファウルなるケースも目立ちました。

一方のENEOSは、出だしトヨタのマッチアップゾーンを攻めあぐねました。これはやむを得ないことでした。渡嘉敷、梅沢、林を怪我で欠いていたことが影響し、オフェンスのシステムが機能しなかったからです。特に渡嘉敷は皇后杯に入ってから怪我ですから、立て直すのは容易なことではありません。

そのような中、1on1で状況に対処したのが、宮澤の3Pやステップインシュートであり、中村のパワードライブシュート、中田のペイントでのシュートでした。オフェンスシステムがうまく行かない中、一人ひとりが1on1で何とか凌いでいたということです。

Qが進むに連れて、トヨタのディフェンスにアジャストしたENEOSは、宮崎と宮澤、中村とのハイピックが決まりだし、中のギャップを突くことができるようになりました。また宮崎や岡本の1on1からのドライブも効果的に決まりました。そして中村の身体を張ったリバウンドもチームに勇気を与えたと思います。(リバウンド、特にオフェンスリバウンドの凄さには感動しました)

ディフェンスは、終始ハーフコートマンツーマン(上から当たりに行った場面もあった)でした。高さではトヨタに劣りますが、中村、宮澤、中田がディフェンスリバウンドをがんばりは、決定的な流れを相手に渡しませんでした。最大14点差を跳ね返しての勝利でした。

ENEOSにとって8連覇の中で、最も苦しみ抜いた優勝になりました。涙、涙の勝利でした!